

御堂筋の かぶり

人間は、心身に気がかりなことがないと動き出すものだ。今の私は、人の集まる



るところに刺激を求めてよ
く出かけていく。幸いに良
いご縁をいただいている。
昨年、大阪商工会議所メ
ンバーの昼食会で卓話する
機会を得た。散会後の歓談
で、「うちの母親は船場の
家で、日本画をよく描いて
いました。いくつか作品が
残っていますので見に来ら
れませんか。ついでに貸し
画廊の方もお見せします
よ」とお誘いを受けた。

ファッションストリート 夢見て

その人は、衣料から服飾
雑貨までの総合卸売業を営
む株式会社「大西」の大西
隆会長。ひと月ほど後のあ
る日、画廊の片隅で大西会
長と再び歓談し、驚く話を
耳にした。氏の父で、先代
後日、その寄付された街
灯のある風景を、店舗近く
の船場センタービルに求め
たのが、このスケッチであ
る。信平会長は空き缶、紙
トリー、ビジネスストリ
ートなどマルチ機能を持っ
たステーションに育てたい。

の故・信平会長が1985
年、103基の街灯を御堂
筋に寄付したという。「発
想の原点は、洋行で立ち寄
ったパリのシャンゼリゼ通
りの明かりにあったよう
です。明るい御堂筋をイメ
ジしていたのでしょう。街
づくりの必要が叫ばれてい
る今日、私の代はどんな事
ができるのか模索している
ところです」と結ばれた。
日本が経済大国として「完
成」したこの時期によくぞ
決心されたものだ。信平
会長は人間性に引かれた。
「こんな夢みたいなコト
を描いたのは、非常に好奇
心が強く、新しがり屋で、大
正モダンをしっかり吸収し
ながら外国を通して日本の
将来を見つめ、事業展望を
進めていったからでしょう
ね」と、大西会長は分析して
みせた。現在、御堂筋には
カフェテラスは徐々に見受
けられるようになったが、
歩行者天国にする条件は整
っていない。ビル1階には
トイレや専門店、ビル前
にはコミュニティー広場やベ



運動を率先して行い、将来
は歩行者天国にすることも
夢見ていた。道路脇には椅
子を置いてお茶をのむカフ
エテラスがあり、洗練され
たファッションナブルなカッ
プルが通る。ファッション
ストリートのような姿
を描いていたという。